

令和7年度利用者アンケートの結果

(1) アンケートの概要

実施目的

応援券の利用状況、応援券事業に対する要望等を把握し、今後の事業計画の検討に活用することを目的に、子育て応援券交付対象者等に対してアンケートを実施した。

実施内容

○アンケート実施方法：

応援券アプリのユーザ登録を行った者（21,158人）にプッシュ通知でアンケートを配布した。また、回答を広く募るため、子ども・子育てプラザでのチラシの掲示を通じて、利用者への回答依頼を行った。

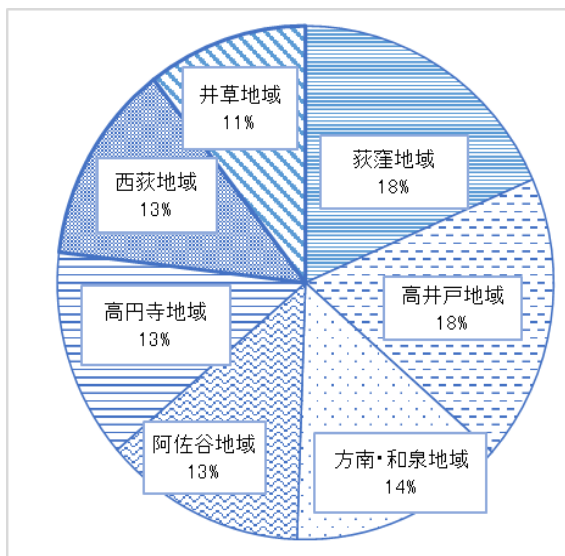
○回答方法：インターネット回答（LoGo フォーム）

○実施期間：令和7年4月18日（金）から令和8年4月15日（水）まで

○回答状況：554人

(2) 回答者の属性について

居住地域



阿佐谷地域： 阿佐谷北、阿佐谷南、成田東、成田西、松ノ木、大宮

井草地域： 井草、上井草、下井草

荻窪地域： 清水、本天沼、天沼、南荻窪、荻窪、宮前

高井戸地域： 久我山、高井戸西、高井戸東、上高井戸、下高井戸、浜田山

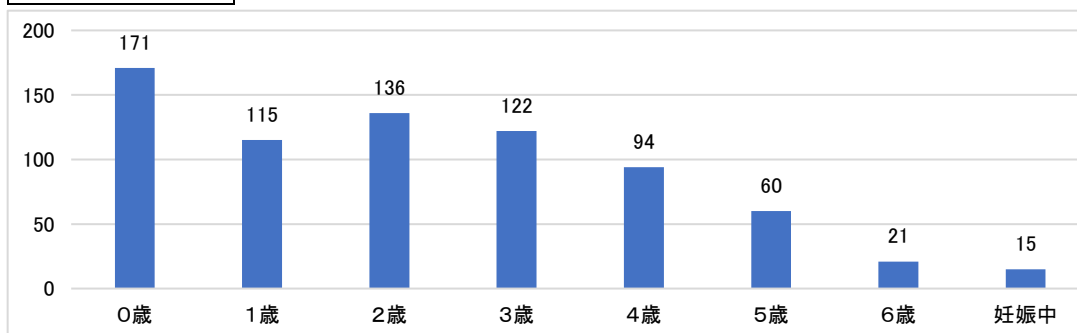
高円寺地域： 高円寺北、高円寺南、梅里、堀ノ内、和田

西荻地域： 善福寺、西荻北、西荻南、上荻、今川、桃井、松庵

方南・和泉地域： 永福、和泉、方南

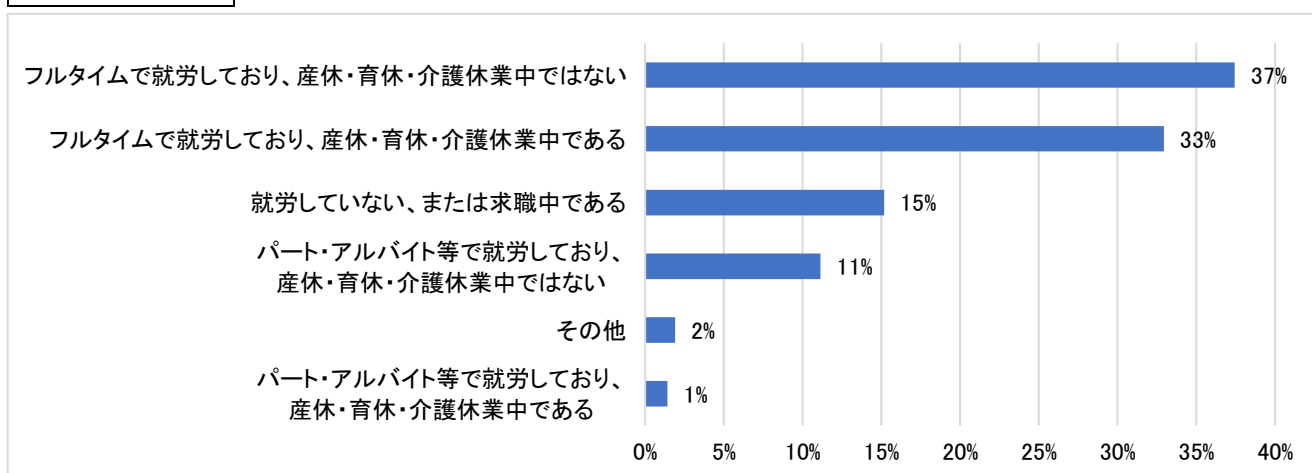
(N=554、単回答) ※Nは回答者数を示す。以下同じ。

未就学児の年齢



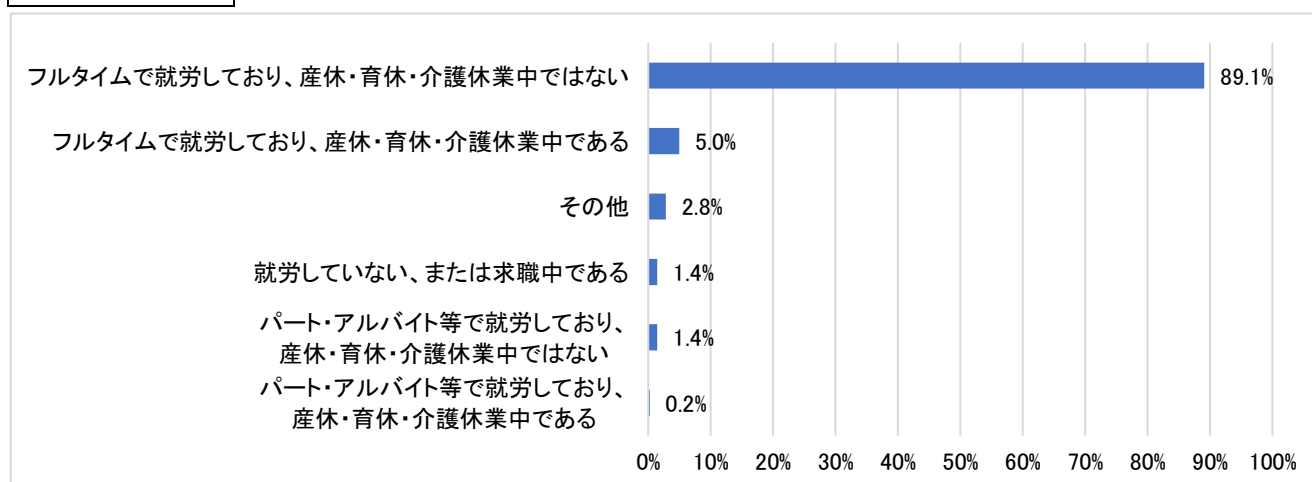
(N=554、複数回答)

母親の就労状況



(N=422、単回答)

父親の就労状況

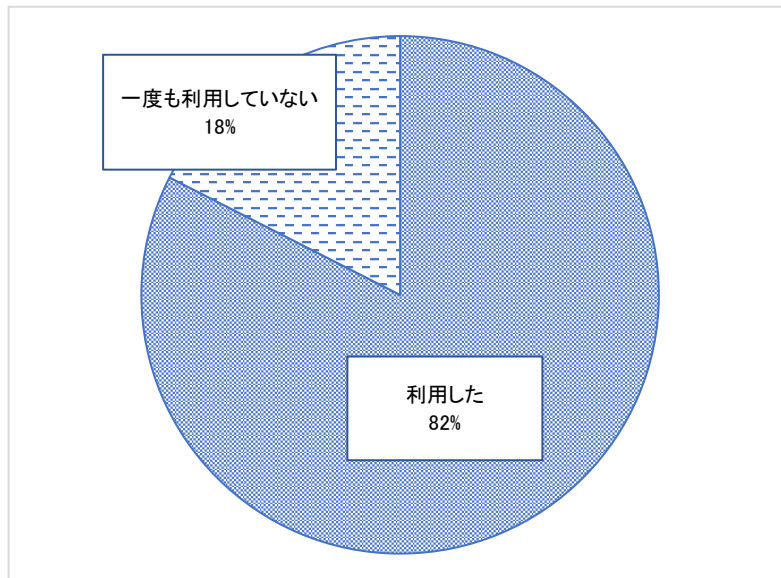


(N=422、単回答)

(3) 杉並子育て応援券の利用状況と評価について

杉並子育て応援券の利用状況

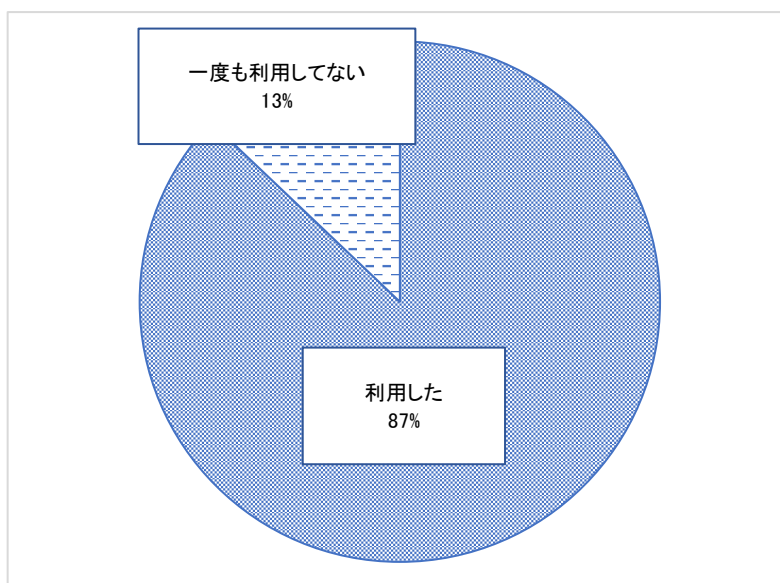
1年以内に応援券を利用したか聞いたところ、「利用した」(82%)が8割を超えている。一方、「一度も利用していない」(18%)が2割近くとなっている。



(N=554、単回答)

アプリ版応援券の利用状況

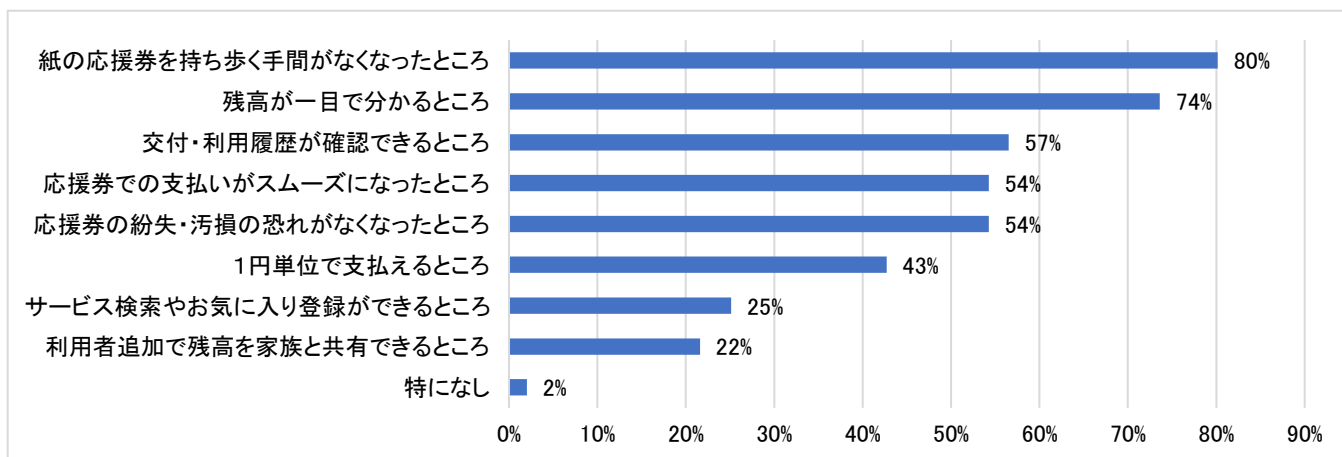
1年以内に応援券を利用した人に、アプリ版子育て応援券を利用したか聞いたところ、「利用した」(87%)が9割近くとなっている。一方、「一度も利用していない」(13%)が1割を超えている。



(N=457、単回答)

アプリ版子育て応援券を利用したメリット

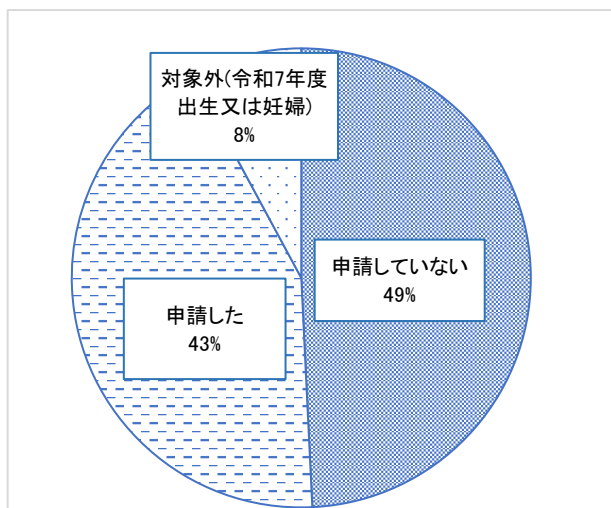
アプリ版応援券を利用した人にアプリを利用してどのようなメリットがあったか聞いたところ、「紙の応援券を持ち歩く手間がなくなった」(80%)が最も多くなっている。次いで「残高が一目で分かる」(74%)、「交付・利用履歴が確認できた」(57%)などの順番になっている。



(N=398、複数回答)

電子フォームによる有償応援券の購入申請状況

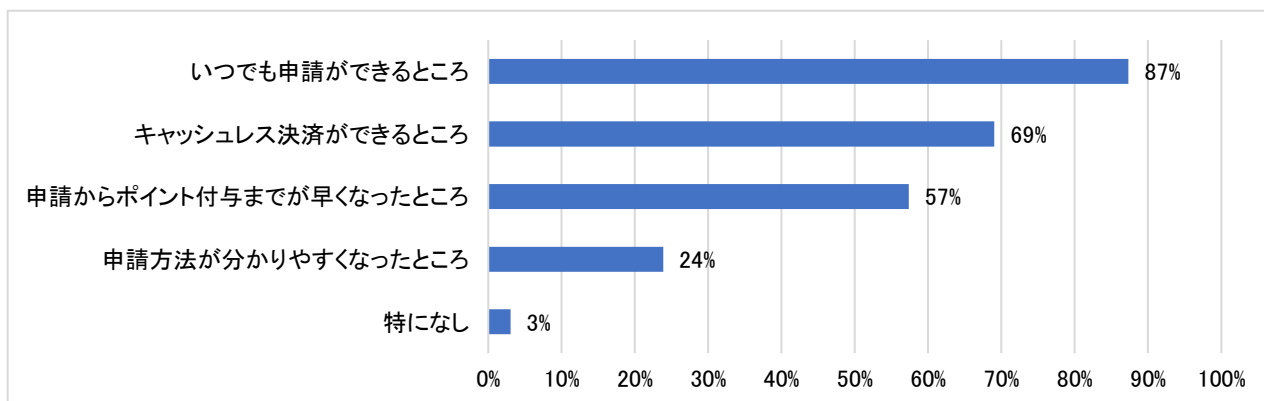
1年以内に応援券を利用した人に、電子フォームにて有償応援券の購入申請を行ったか聞いたところ、「申請していない」(49%)がほぼ5割となっている。一方、「申請した」(43%)が4割を超えている。



(N=457、単回答)

電子申請になったことで良かったところ

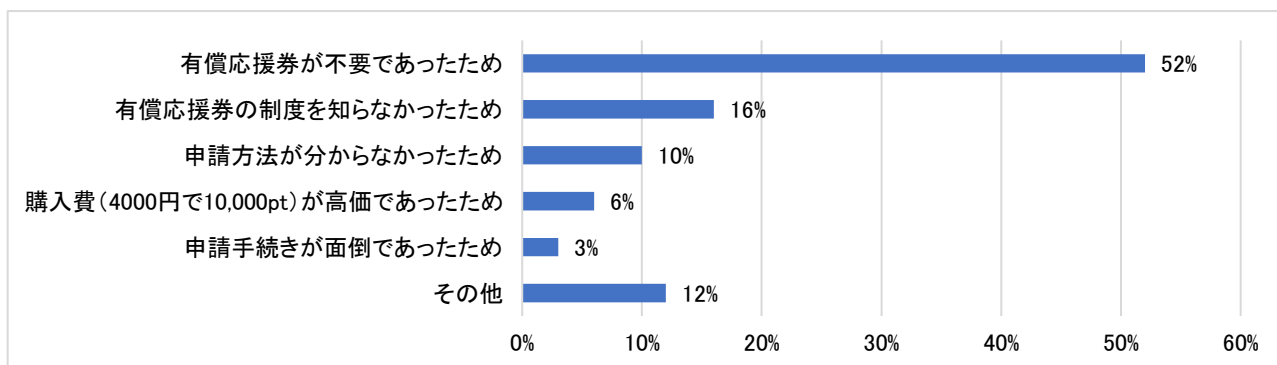
有償応援券の購入申請を行った人に、電子申請になり良かったところがあるか聞いたところ、「いつでも申請できる」(87%)が最も多く、次いで「キャッシュレス決済ができる」(69%)、「申請からポイント付与までが早くなった」(57%)などの順番になっている。



(N=197、複数回答)

有償応援券を申請しなかった理由

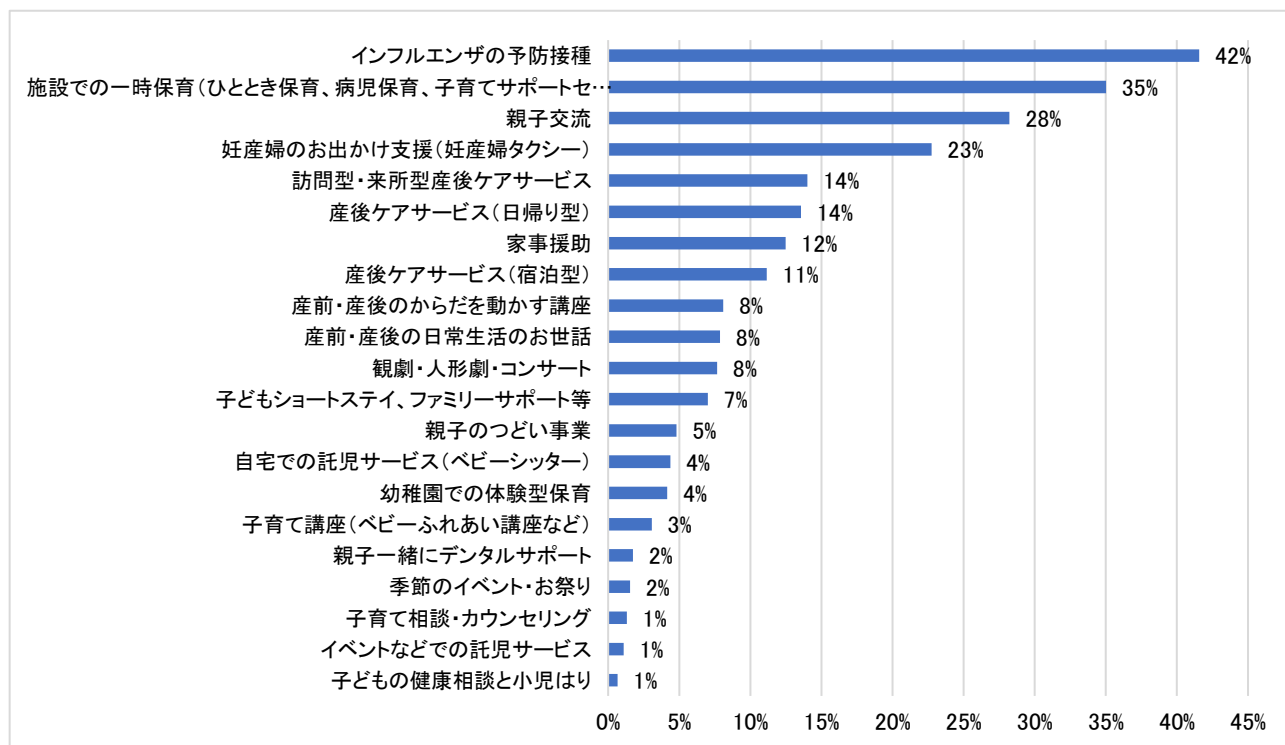
有償応援券を申請しなかった人に有償応援券を申請しなかった理由を聞いたところ、「有償応援券が不要であったため」(52%)が5割を超え、次いで「有償応援券の制度を知らなかったため」(16%)、「その他」(12%)などの順番になっている。



(N=220、複数回答)

何のサービスに応援券を利用していたか

1年以内に応援券を利用した人に、利用したサービスを聞いたところ、「インフルエンザの予防接種」(42%)が4割を超え、次いで「施設での一時保育」(35%)、「親子交流」(28%)などの順番になっている。



(N=457、複数回答)

応援券がなかったとしても、サービスを利用していたと思いますか。

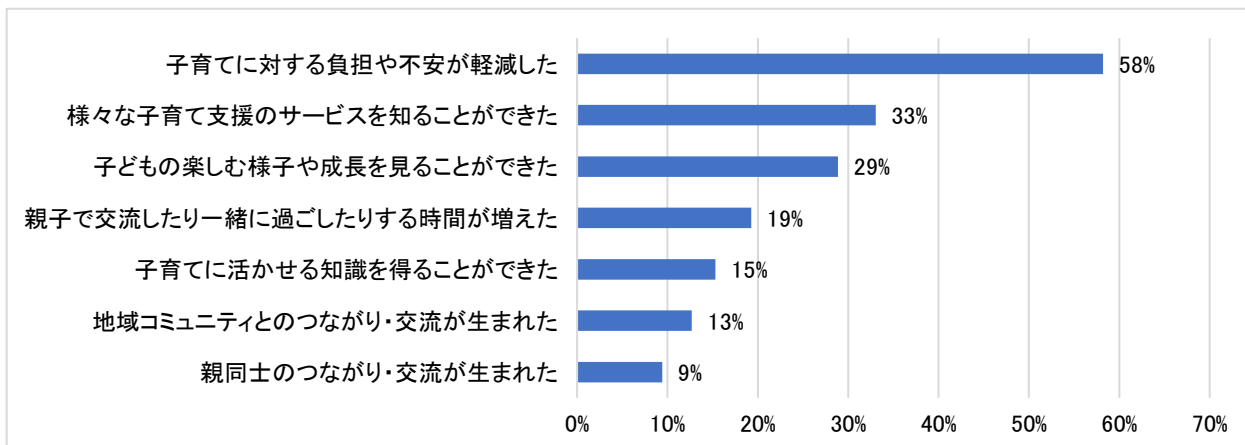
どのサービスに応援券を利用していたか回答した人に、応援券がなかったとしてもサービスを利用したと思うかを聞いたところ、応援券がなかったとしても利用していたと思うサービスでは、「インフルエンザの予防接種」(91%)が9割を超え最も多く、次いで、「季節のイベント・お祭り」(71%)、「訪問型・来所型産後ケアサービス(出産・母乳育児相談)」(69%)などの順番になっている。一方で、応援券がなかったら利用していないと思うサービスでは、「観劇・人形劇・コンサート」(83%)が8割を超え最も多く、次いで、「親子のつどい事業」(77%)「家事援助」(75%)などの順番になっている。

	応援券がなかったとしても 利用していたと思う	応援券がなかったら 利用していないと思う	
親子交流	33%	67%	N=129
親子のつどい事業	23%	77%	N=13
観劇・人形劇・コンサート	17%	83%	N=35
季節のイベント・お祭り	71%	29%	N=7
妊産婦のお出かけ支援	50%	50%	N=104
産前・産後のからだを動かす講座	27%	73%	N=37
産前・産後の日常生活のお世話	39%	61%	N=36
産後ケアサービス(宿泊型)	29%	71%	N=51
産後ケアサービス(日帰り)	39%	61%	N=62
訪問型・来所型産後ケアサービス	69%	31%	N=64
子育て講座	36%	64%	N=14
子育て相談・カウンセリング	33%	67%	N=6
家事援助	25%	75%	N=57
子どもの健康相談と小児はり	67%	33%	N=3
親子一緒にデンタルサポート	38%	63%	N=8
施設での一時保育	59%	41%	N=160
イベントなどでの託児サービス	40%	60%	N=5
自宅での託児サービス	35%	65%	N=20
幼稚園での体験型保育	63%	37%	N=19
インフルエンザの予防接種	91%	9%	N=190
上記以外のサービス(子どもショートステイ、ファミリーサポート、シルバー人材センター等)	47%	53%	N=32

(N=457、複数回答)

子育て応援券を利用したメリット

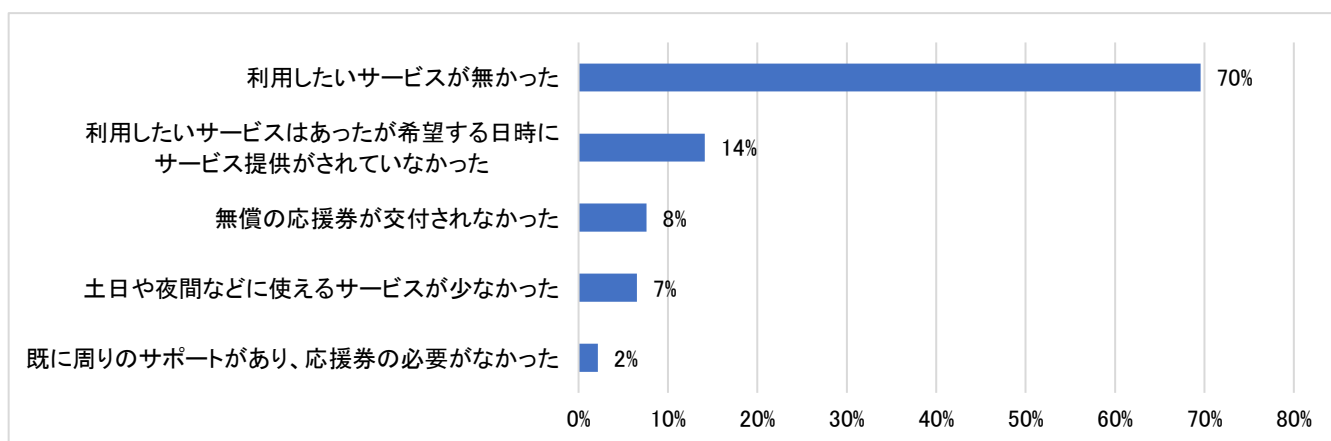
1年以内に応援券を利用した人に応援券を利用したことでどのようなメリットがあったか聞いたところ、「子育てに対する負担や不安が軽減された」(58%)が5割を超え最も多く、次いで「様々な子育て支援のサービスを知ることができた」(33%)、「子どもの楽しむ様子や成長を見ることができた」(29%)「親子で交流したり一緒に過ごしたりする時間が増えた」(19%)などの順番になっている。



(N=457、複数回答)

子育て応援券を利用しなかった理由

応援券を一度も利用していない人に応援券を利用しなかった理由を聞いたところ、「利用したいサービスがなかった」(70%)が7割で最も多かった。次いで「利用したいサービスはあったが希望する日時にサービス提供がされていなかった」(14%)、「無償の応援券が交付されなかった」(8%)「土日や夜間などに使えるサービスが少なかった」(7%)などの順番になっている。

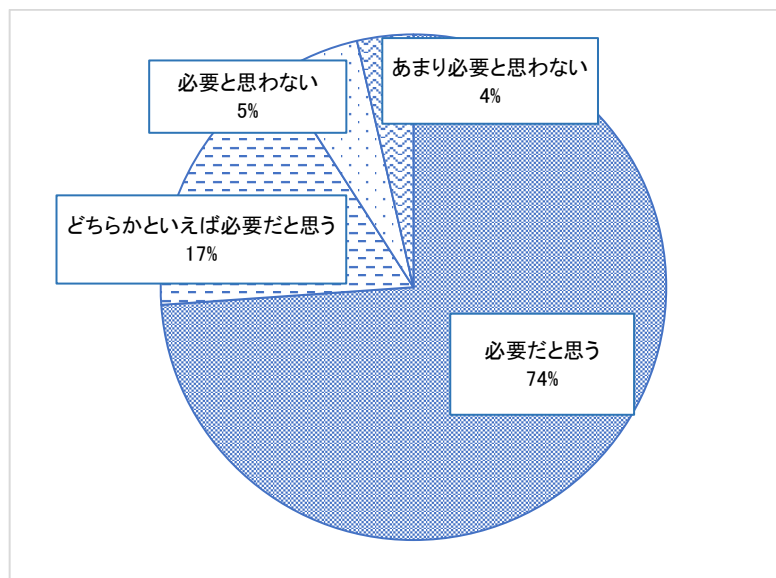


(N=98、複数回答)

(4) 応援券事業について

安心して子育てできる環境の充実のために応援券事業は必要だと思いますか。

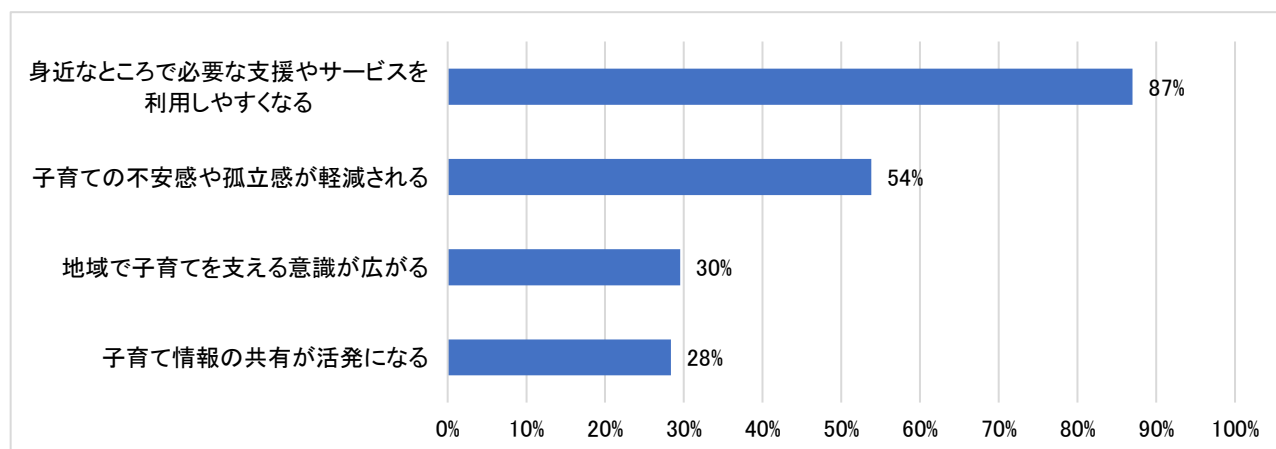
安心して子育てできる環境の充実のために応援券事業は必要だと思うかを聞いたところ、「必要だと思う」(74%)が最も多く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」(17%)、「必要と思わない」(5%)などの順番になっている。



(N=553、単回答)

どのような効果が期待できると思いますか。

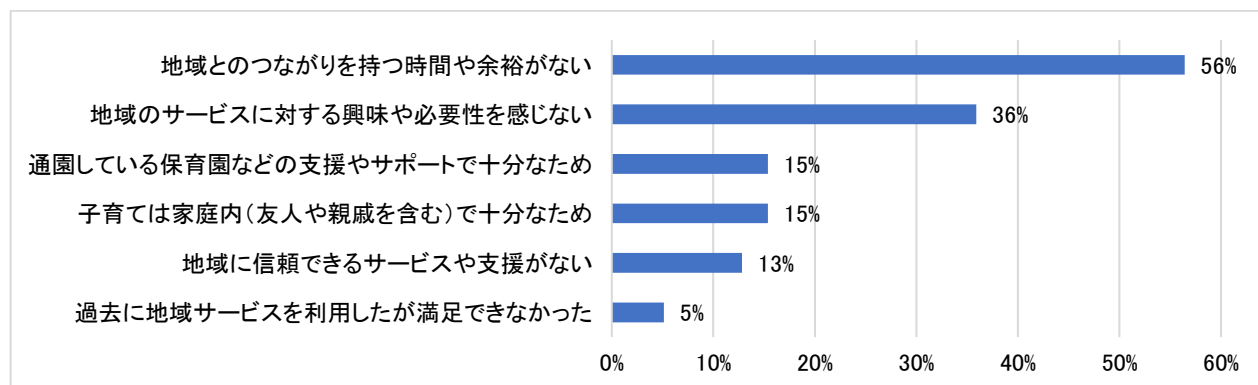
応援券事業の仕組みによって、どのような効果が期待できると思うかを聞いたところ、「身近なところで必要な支援やサービスを利用しやすくなる」(87%)が9割近くで最も多かった。次いで「子育ての不安感や孤立感が軽減される」(54%)、「地域で子育てを支える意識が広がる」(30%)「子育て情報の共有が活発になる」(28%)などの順番になっている。



(N=515、複数回答)

応援券事業が必要だと思わない理由

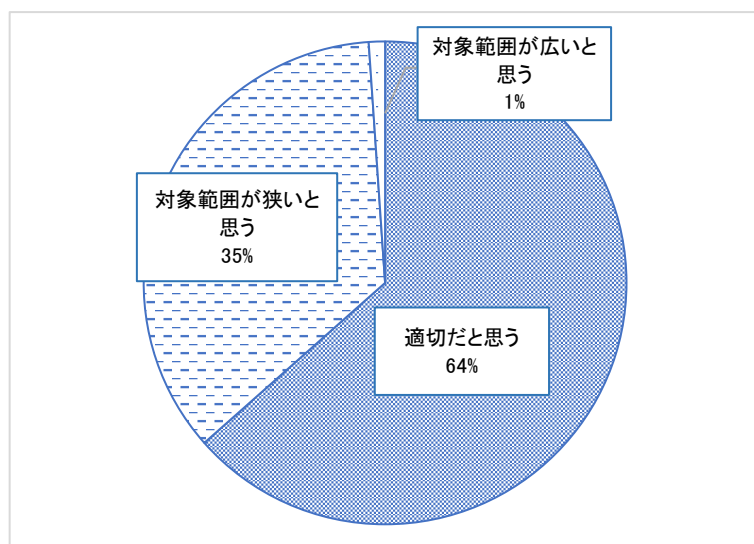
応援券事業の仕組みが必要だと思わない理由を聞いたところ、「地域とのつながりを持つ時間や余裕がない」(56%)が5割半ばで最も多かった。次いで「地域のサービスに対する興味や必要性を感じない」(36%)、「通園している保育園などの支援やサポートで十分なため」(15%)、「子育ては家庭内(友人や親戚を含む)で十分なため」(15%)などの順番になっている。



(N=39、複数回答)

応援券事業の対象範囲について

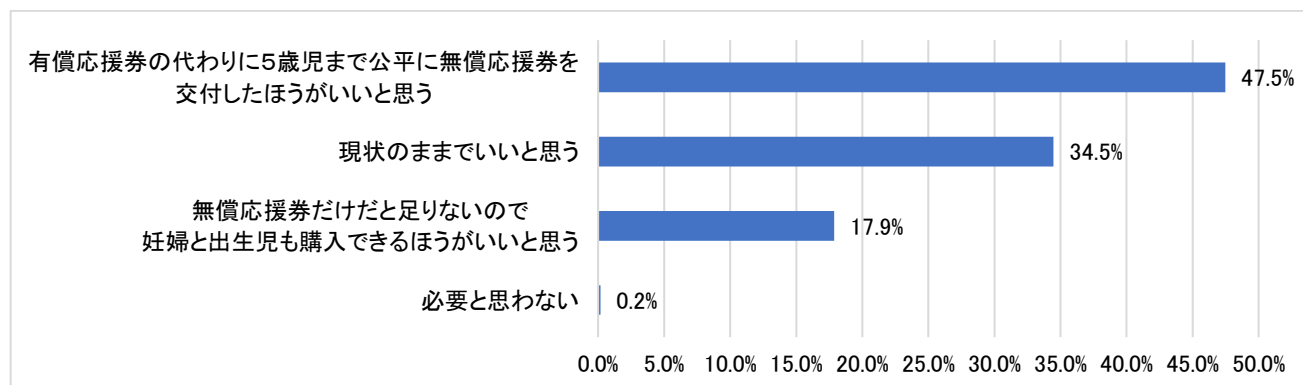
子育て応援券は早い段階からの支援が重要な妊娠期から地域とのつながりが希薄になりやすい就学前までを対象とし、特に親子で過ごす時間が長い2歳児までは重点的に支援する目的から無償応援券を交付している。現在の応援券事業の範囲について適切だと思うのかを聞いたところ、「適切だと思う」(64%)が6割半ばで最も多かった。次いで「対象範囲が狭いと思う」(35%)、「対象範囲が広いと思う」(1%)などの順番になっている。



(N=553、単回答)

有償応援券の制度についてどう思いますか。

現行制度では、無償応援券の交付対象が2歳児までとなっていることから、3～5歳児が応援券を利用するには、有償応援券を購入する必要がある。現在の有償応援券の制度について、どう思うのかを聞いたところ、「有償応援券の代わりに5歳児まで公平に無償応援券を交付したほうがいいと思う」（約48%）が5割近くで最も多かった。次いで「現状のままでいいと思う」（約35%）、「無償応援券だけだと足りないので妊婦と出生児も購入できるほうがいいと思う」（約18%）、「必要と思わない」（0.2%）などの順番になっている。



(N=554、単回答)